

2024年1月31日(水)第五水曜祈祷会

マタイの福音書13章1～9節

『種を蒔く人のたとえ』

【前章までのあらすじ】 *安息日問題を契機に、パリサイ人たちはイエスさまに敵意を燃やす

- ①パリサイ人たちはイエスさまに対する敵意どころか、ついには()まで立てていく。
- ②イエスさまはパリサイ人たちがいる前で、大勢の群衆を癒し、()について教えられた。
- ③イエスさまは、だれでも父の()を行うなら、わたしの兄弟、姉妹、母であると言われた。

【観察と黙想】

1. 「たとえ話しの舞台・背景」(13章1～3節) *「たとえ」の原語は、「傍らに」「置く」の合成語。

- ①当時のイスラエルにおいて、農夫が種まきをするのはどういうものですか。
→
- ②当時の農夫たちは、どのように種まきをしましたか(二種類)。
→
- ③イエスさまはなぜ当時の人ならだれでも知っている種まきの話しをされたのですか。
→

2. 「たとえが表していること」(13章4～9節) *種はみことば、畑地は聴く者の心を表している。

- ①種が「道端」「土の薄い岩地」「茨」に落ちることは、農夫にとって何を表していますか。
→
- ②種を蒔く農夫にとって大事なことは何ですか。
→
- ③種が「良い地」に落ちることは、農夫にとってどんな希望になりますか。
→

3. 「たとえで話す理由」(13章10節～) *「耳のある者」とは、聞こうとする意志を持つ者のこと。

- ①「たとえ話し」には、どんな効果がありますか(二つ)。
→
- ②弟子たちと群衆の違いは何ですか。
→
- ③群衆はなぜイエスさまのたとえ話しを理解できなかったのですか。
→

【適用と分かち合い】

- ①私たちが家族や友人に福音を伝えても聞いてもらえなかったという経験があるでしょうか。
- ②私たちが福音を伝える上で、否定的になったり、妨げとなるものはどういうものですか。
- ③福音を語る者にとって大事なこと、また、福音を聴く者にとって大事なことは何ですか。